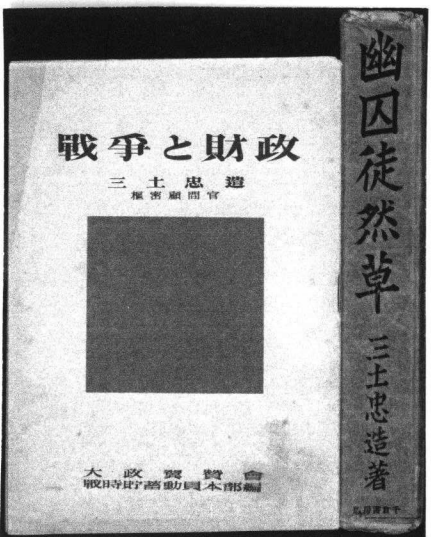


三土忠造 みつちぢ 政治家。明治四年六月（二十五日）高松縣大川郡水主村生れ、昭和二十二年四月一日歿（八七一―一九四八）。舊姓宮脇。號二嶺、智山。明治二十年東京高等師範學校卒（首席）。在學中復自激石、英詩學會の指導を受けける。二十五年イギリス留學、次ハ韓國の參事官となり彼地の學制の創始ハ盡瘁。歸國後『東京日日新聞』編輯長、母校高師教授と政界ハ志し、四十一年衆議院議員（當選十一回）。爾後農商務相、文相、藏相、逓相、鐵道相就任。この間帝人事件ハ連坐投獄も、全被告無罪判決ヲ勝ち取る。昭和十五年樞密院顧問官、戦後と内相兼運輸相と務む。俳句ヲ能くした。

著書ハ『親の罪』（名家庭教育批評）（明治四十年三月十五日金港堂書籍株式会社）、『世史美談』（明治四十一年七月十一日二卷堂書店）、『梅堂遺稿』（男忠造輯、大正九年一月二十五日自刊）、『代表政黨大演説集』（他七名合著、大阪毎日新聞社編、昭和二年一月十一日大阪毎日新聞社・東京日日新聞社「毎日叢書」）、『經濟非常時の正視』（昭和五年十一月五日日本評論社）、『幽囚徒然草』（昭和十年八月四日千倉書房）、『帝人事件と私の心境―ハム判廷ニ於けるニ』  
 上巻 三土氏陳述速記（昭和十一年一月十日小笠原善太郎編輯）、『英國ニ正視セヨ』（昭和十四年二月



二十五日共盤



閣）、『戦争と財政』（昭和十八年二月二十日大政翼賛會宣傳部）、『自樂集』（昭和二十九年十

二月二十日(ニエチツ刊)等。広瀬英入郎編(ニエチエ造) (昭和)二十七年七月十五日(ニエチエ先生訃告)があらる。